教育から、
福島を考える。

成城大学 法学部4年
齋藤千裕

これまでの活動

・公共政策コース エネルギー政策ゼミ所属　：　事故後の復興事業と産業発展を学ぶ
・「福島、その先の環境へ。」ツアー参加　：　フィールドワークで福島を知る

起こった心情の変化

- 震災当時小さくて**よく覚えていない**
- 政治が絡んで意思表明が**面倒臭い**
- よく**知らないけど**放射線を気にし過ぎでは
- 誰かが解決しないといけないけど**自分は嫌**
- 全体的に頑張って欲しいけど**よく分からない**
- 子どもには**なんとなく**福島県産を選んでほしくない

⇒

- なんとなく福島を拒絶していたことへの**深い反省**
- もっと**知る機会があれば**…
- 自分の意見を持つ
  賛成？反対？
- 「食べて応援」したい

活動から感じたこと

- 着実に復興する福島。しかし、**他の地域は福島を正しく見ているか**？
- 除去土壌の県外最終処分時までに、大人が持つ**福島への偏見を無くしたい**
- 震災を知らない・覚えていない**若い世代こそ、福島をフラットに知るチャンス**

提案　次世代向け「福島スタディ」を推進する

～過去を活かし、今を学び、未来を見据える～

目標達成

- Why　持続可能な発展を実現するため
- Who　これから先の小中高生が
- When　2045年、除去土壌の県外最終処分までに
- Where　教育現場において
- What　福島の原発関連の問題について
- How　現場に触れて考える

最終目標　福島を「日常の選択肢」にする

旅行先、食品の産地、就職先、移住先etc.

具体的事例

①過去を活かす　:学習旅行先のひとつとして
②今を学ぶ　:イノベ構想をもっと身近に
③未来を見据える:除去土壌の活用

①過去を活かす—学習旅行先のひとつとして

・提案
広島・長崎・沖縄での平和学習のように、福島を
小中学生の研修旅行先として選んでもらう

・具体案
会津や中通りの美しい自然とともに、浜通りの
伝承館、廃炉資料館、中間貯蔵施設等を案内する

・効果
原発事故の**正しい知識を普及**させる
歴史が動いた地として**福島に興味を持ってもらう**

②今を学ぶ—イノベ構想をもっと身近に

・提案

産業が発展する浜通りでの視察を実施し、
学生の進路学習に活かす

・具体的提案

ロボット産業やエネルギー事業などの先進的な
研究を行う施設において、学生のインターンや
校外学習の受け入れを活発化させる

・効果

イノベ構想施設を見学、賛同する学生を獲得し、就職者を
増やすなど、**交流人口拡大による地域活性化**につなげる

③未来を見据える—除去土壌の活用

・提案
線量低減済の除去土壌を教育現場で活用する

・具体的提案
線量が低減した除去土壌を用いて、
アサガオやホウセンカ等の土として利用する

・効果
口に入らない花卉で**除去土壌への抵抗感を減らす**
今後の最終処分に向け、移動の手軽な除去土壌で
子ども達、保護者、教員に福島を身近に感じてもらう

https://ameblo.jp/koizumi-shinjiro/

「福島スタディ」から期待できること

・震災と原発事故の教訓を**風化させない**
・主体的に震災を学ぶ場を作り、**風評被害を払拭**する
・福島を身近に感じる・訪れることで「安全と安心」、「納得と許容」の間にある心理的な隔たりを埋める

「計画遂行のために必要なこと

- 科学的根拠やこれまでの健康被害例をもとに、保護者が活動に賛同できるよう**十分な説明**を行う
- これまでも取り組まれてきた事例①②は、事業をさらに活発化できるよう**教育機関へのアピールを強化**する
- 新たな取り組みである事例③は、公的機関でこれまで行われてきた類似の活動をもとに**理解を得る**

「福島スタディ」が目指す未来

最終目標

福島を「日常の選択肢」にする

「福島だから行かない」「可哀想だから福島県産を買おう」「福島県産だから安い」では
福島県の経済は持続しない。次世代が福島を見るフラットな視点を持つことで、
他の地域と同様に福島を選択する持続可能な未来を創ることができると考える。

目標達成

- Why　持続可能な発展を実現するため
- Who　これから先の小中高生が
- When　2045年、除去土壌の県外最終処分までに
- Where　教育現場において
- What　福島の原発関連の問題について
- How　現場に触れて考える